

研究課題名	頰動脈血管拡張術・ステント留置術後の慢性期再狭窄の特徴とその要因の検討
実施責任者	所属・職名： 脳神経外科 部長
	氏名： 鈴木 宰
研究の概要	<p>頰動脈高度狭窄症に対する外科的治療として、近年カテーテルによる血管拡張術・ステント留置術が広く行われるようになってきています。周術期の合併症や短期の治療効果に関しては、多くの報告がありますが、長期における再狭窄やその治療効果、適切な術後の通院の頻度、期間などに関しては、まだ一致した見解がないのが現状です。</p> <p>頰動脈血管拡張術・ステント留置術後の長期間の経過、治療効果を詳細に調査し、再狭窄や再治療の有無とそれに関わる因子、長期的な治療効果を解析致します。</p>
対象となる個人情報	カルテ番号、生年月日、イニシャル、患者背景（年齢・性別・既往歴・併存疾患・喫煙・入退院時 modified Rankin Scale）、病変の性状、症候の有無、治療手技、神経学的予後、合併症、治療後の脳卒中の有無、再狭窄の有無とその時期及び、再治療の有無、術後の通院期間
実施の期間	西暦 2008 年 4 月 1 日より
	西暦 2019 年 3 月 31 日まで
研究対象	上記期間に頰部内動脈狭窄症に対して経皮的脳血管形成術を当院で受けられた方。